



《全日本中学校長会》

令和7年6月3日（火）

6月 会長メモ

会長 青海 正



雨のあじさいは、春の桜同様、季節の移ろいを感じさせてくれる日本の代表的な花の一つです。あじさいが魅せる情緒美、梅雨に彩られた風情溢れる素敵な季節になりました。

さて、5月15日（木）の第76回総会において、再任をご承認いただきました。微力であり、若輩でございますが、本会の意義や目的を実現するため、全身全霊を打ち込み、会長としての責務を果たしてまいり所存です。よろしくお願いいたします。

副会長の紹介

今年度、各地区の副会長をお務めいただくのは、次の皆様です。

※敬称略

地区（都道府県名）	（学 校 名）	（氏 名）
北 海 道	室蘭市立室蘭中学校	山田 誠一
東 北（山形）	山形市立第一中学校	細谷 直樹
関東甲信越（長野）	諏訪市立上諏訪中学校	牛越 雅紀
東 海 北 陸（岐阜）	大垣市立上石津学園	神谷 憲一
近 畿（兵庫）	神戸市立長峰中学校	古川 雅一
中 国（山口）	山陽小野田市立高千帆中学校	高来 英行
四 国（高知）	越智町立越智中学校	須内 康雄
九 州（熊本）	熊本市立江南中学校	星田 正治

どうぞよろしくお願いいたします。

部長・委員長の紹介

本会を運営するに当たり、会務執行に必要な事項を担う各部・委員会の活動は極めて重要です。東京都をはじめ、関東甲信越地区の先生方に幹事として参加いただいている各部・委員会の活動を昨年度にも増して一層充実させ、政策提言できる実践的専門家集団を目指したいと思います。令和7年度の各部の部長及び委員長は、次の皆様です。

※敬称略

総 務 部	東京都目黒区立目黒西中学校	田井 俊行
会 計 部	〃 昭島市立清泉中学校	佐藤 晴美
教 育 研 究 部	〃 板橋区立板橋第二中学校	柳澤 忠男
教 育 情 報 部	〃 町田市立忠生中学校	高橋 博幸
生 徒 指 導 部	〃 足立区立西新井中学校	石井 秀生
編 集 部	〃 多摩市立青陵中学校	岩崎紀美子
事 業 部	〃 町田市区立金井中学校	松岡 健
予 算 対 策 部	〃 世田谷区立烏山中学校	大友 文敬
給 与 対 策 部	〃 練馬区立開進第二中学校	平野 茂
記念出版委員会	〃 多摩市立青陵中学校	岩崎紀美子（再掲）

各部、委員会の活動等について、ご協力くださいますようお願いいたします。

就任挨拶より（一部要約・抜粋）

当面、取り組んでまいりたいと考えていることのうちから、3点述べさせていただきます。

次期学習指導要領の改訂に関わる取組

デジタルの力を活用しながらグローバルに活躍する人材を育成する、一人一人の子供の状況に応じたきめ細かな教育を充実させる、学校現場での働き方改革を一層推進する、予測困難な時代の中で、学びのあり方そのものも改革していく必要があります。また、デジタルとリアルの最適な組み合わせによる教育の新しい授業スタイルの展開は必須です。これまで以上に柔軟な発想で、複雑かつ多様な課題に対応すること枚挙にいとまがありません。次期学習指導要領の改訂に当たっても、これまで全日中が果たしてきた役割を継承し、学校からの教育改革を推進すべく、私たち全日中が、中学校教育の現状を踏まえた意見を、しっかりと伝えていくことが肝要と考えております。

部活動改革に関わる取組

部活動の地域展開は、急激な少子化が進む中においても、将来にわたって放課後や休日の生徒の心の居場所、継続的にスポーツや文化芸術活動に親しむ機会を保障することが主たる目的です。その際には、当事者である生徒を中心に考え、地理的要因や障害の有無等に関わらず、生徒が希望する活動を主体的に選択できる環境の整備を図ることが大切です。今後は、学校の働き方改革の実装とともに、学校部活動の教育的意義を失うことなく、地域や学校の実情に応じた多様な選択肢を認めつつ、実施主体を学校から地域へ展開し、地域全体で関係者が連携して支えることが重要です。地域や学校の現状を踏まえ、課題を共有し、スポーツ庁や文化庁等にも推進策を共有するなどして、部活動改革の実行に向けた取組を、更に進めてまいります。

教師の確保・育成

これまでも、またこれからも教師は公教育の要です。そして今は特に、「令和の日本型学校教育」の実現という目標の下、学びに関する高度専門職としての教師には、新たな学びを展開できる実践的指導力を発揮することをはじめ、高度化・複雑化する教育課題に的確に対応していくことが期待されています。少子化によって生産年齢人口の減少が見込まれ、人工知能技術等の先端技術が高度に発達する時代だからこそ、教師による対面指導や子供同士による学び合い、地域社会での多様な体験活動を通じた、子供一人一人の能力を最大化する教育の重要性がますます高まっています。その中で、教師に求められる役割は、子供たちの主体的な学びへの効果的な支援・伴走へと転換していきます。また、学習指導要領の改訂も見据え、社会の変化や学習環境の進化に伴う新たな学びの実装への対応が求められるところです。そして、こうした使命を果たしていかなければならない教師には、質の高い人材を十分に確保・育成していく必要があります。

日本中学校体育連盟とカンコー学生服との包括連携協定の調印について

日本中体連とカンコー学生服は4月10日、中体連が主催する全国中学校体育大会（全中）の運営に関して、包括連携協定を結びました。全中は全国の中学生にとって競技力向上だけでなく、スポーツを通じた心身の成長の機会となる重要な大会ですが、近年持続的な大会運営が課題となっています。中体連は、令和9年度の大会から実施競技を現行の夏季・冬季合わせて20競技から計11競技に大幅に減らす方針を決めました。こうした課題の解決に向けて、競技数が見直される令和9年度の大会に合わせ、連携協定を結ぶことになりました。協定では、「大会開催計画」「競技別運営の支援」「自治体との連携」「協賛の新規契約・継続契約」「広報活動、啓発イベント」などに関することが連携協力内容として盛り込まれています。設立70周年の節目となる今年度の包括連携協定を全中大会改革の出発点とし、今後も全国の中学生の夢の実現を図るべく、全会員の皆様の知恵と情熱を集結し、国や関係団体との連携も深め、共に邁進していきます。